

2025年度
JENDL委員会 炉定数専門部会 核種生成量崩壊熱WG会合
議事録

2026年2月25日(火)

13:00-14:30

Zoom オンライン会合

出席者（敬称略・順不同）

委員：親松和浩（愛知淑徳大）、三輪周平（原子力エンジニアリング）、光安岳（日立）、松居祐介（TEPSYS）、佐藤駿介（電中研）、山路和也（三菱重）、湊太志（WGリーダー、九州大）、松村太伊知（JAEA）、渡邊友章（JAEA）

オブザーバー：名内泰志（電中研）、小玉泰寛（原燃工）、桑垣一紀（JAEA）、和田 怜志（ESS）、深堀智生（JAEA）

資料

1. 議事次第
2. 2024年度 JENDL 本委員会議事録
3. SWAT-X の開発について
4. これまでに議論された課題（継続資料）

議題

1. 事務的連絡
湊 WG リーダーより、今年度は委員編成に変更はなかったことが報告された。
2. 昨年度の議事録の確認
昨年度の核種生成量・崩壊熱 WG の議事録の確認が改めて行われた。
3. 議題報告
 - 3.1 JENDL-5 ライブラリを用いた SCALE による崩壊熱計算（山路委員）
山路委員より、JENDL-5 に基づく SCALE コード用の断面積ライブラリ・崩壊データについて口頭で簡単な紹介がなされた。詳細については、日本原子力学会 2026 年 春の年会で、“SCALE コードシステム用 JENDL-5 ライブラリの整備”（講演番号：1D-11）という演題で発表されることが紹介された。
 - 3.2 SWAT-X の開発状況（渡邊委員）
JAEA で開発中の燃焼計算コードシステム SWAT-X の整備状況について、渡邊委員より報告がなされた。現在は、任意の評価済核データライブラリに基づき燃焼チェーン

を自動構築する機能の開発が進められている。開発中の機能では、崩壊データと核分裂収率を ENDF-6 形式ファイルから直接取得し、断面積情報は評価済核データを多群形式に処理した断面積テーブルから読み込んでチェーンを生成することができる。検証として、JENDL-5 の 4070 核種による詳細チェーンを用いた UO_2 燃料ピンセル燃焼計算を実施し、他コードとの比較により妥当性を確認したことが紹介された。また、核種指定によるチェーン簡略化機能についても紹介がなされた。その他の開発事項として、ORIGEN2 相当の高速計算機能として、固有直交分解による次元削減を用いた燃焼計算手法についても検討を進めていることが報告された。

4. その他

- ・委員内で共有されている「これまでに議論された課題」（資料番号 4）の内容について確認が行われた。2024 年度の課題として、光誘起核分裂収率データの評価が追加された。

- ・JENDL 本委員会が 2026 年 3 月 5 日に開催されることが報告された。